

第 4 次 佐野遺跡緊急発掘調査報告書

山ノ内町教育委員会

第 4 次 佐野遺跡緊急発掘調査報告

1. 遺跡としての種類・品数及び名称

佐野遺跡（史跡指定 昭和51年12月25日）

縄文時代晩期 1か所

2. 発掘した土地の所在

長野県下高井郡山ノ内町大字佐野 1,015 番地

3. 土地の所有者

宮沢 孝行 長野県下高井郡山ノ内町大字佐野 1,015 番地

4. 当該地の範囲

地 字	地 番	地 目	地 積	備 考
谷 地	1,015	宅 地	162.32 m^2	

5. 調査責任者

長野県下高井郡山ノ内町教育委員会 教育長 村上 富吉

6. 調査担当者

国学院大学文学部講師 日本考古学協会員 永峯 光一

長野県文化財保護指導委員 " 金井 汲次

中野市立長丘小学校 教諭 " 田川 幸生

7. 発掘の目的

史跡佐野遺跡の指定地内に住居を構えていた宮沢孝行氏が、住宅の全面改築を計画したことにより現状変更のやむなきにいたり文化庁長官の許可（昭和52年5月11日付委保第4の344号）により緊急発掘調査を実施した。

8. 発掘の経過

昭和52年3月30日付で申請した現状変更に対し、昭和52

年5月11日付委保第4の344号で許可されたが、許可条件として事前に調査するよう指示があつたため、緊急発掘調査を実施した。

9. 発掘の状況

(1) 調査団

発掘は、第4次発掘調査団を編成して実施した。

第4次 佐野遺跡発掘調査団

- | | | |
|-----------|--------------|--------|
| ○ 調査責任者 | 山ノ内町教育長 | 村上 富吉 |
| ○ 顧問 | 長野県文化財専門委員 | 金井喜久一郎 |
| ○ 調査団長 | 国学院大学文学部講師 | 永峯 光一 |
| " 代理(発掘) | 長野県文化財保護指導委員 | 金井 汲次 |
| " (庶務) | 中野市立長丘小学校教諭 | 田川 幸生 |
| ○ 調査員(主任) | 山ノ内町文化財調査員 | 山上 右八 |
| " | 飯山北高校教諭 | 高橋 桂 |
| " | 県教委文化課指導主事 | 関 孝一 |
| " | 日伸精機社員 | 松沢 芳宏 |
| ○ 事務局長 | 山ノ内町教育委員会 | 坂口 孝雄 |
| ● 協力 | 山ノ内町佐野遺跡保存会 | |

(2) 調査

6月24日(金) 曇のち小雨

グリット(2m×2m)を北の方向に向けて20個を設定し、杭打ちを済ませてから縄張りを行つた。

6月25日(土) 曇

№1. 3. 5. 7. グリットの発掘調査を開始し、土器片・石屑等を検出した。

6月26日(日) 晴

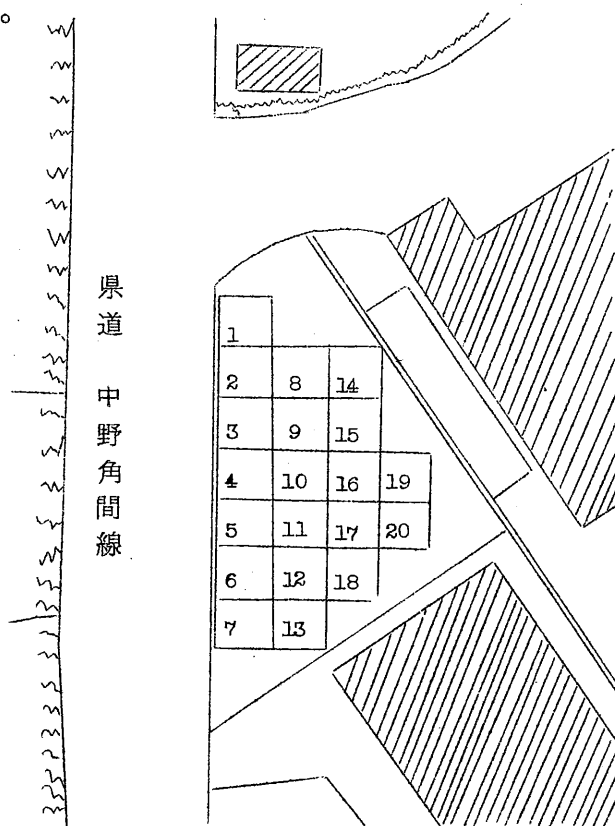
㊦ 2. 4. 6. 8. 9. 11. 13. 14. 15. 16. グリットの発掘を行い、土器片・石器(石鏃、磨石斧)・石屑等が出土した。土層は全面的に攪乱され、層位的な資料の検出はできなかった。

6月27日(月) 晴

㊦ 11. 12. 17. 18. 19. 20. グリットの発掘を実施、遺物の発掘はあつたが遺構の検出はなかつた。昨日に増して土層の攪乱がみられた。午後測量を行い、発掘調査は終了した。

6月28日(火) 晴

遺物洗いをする。



発掘グリット図

$\frac{1}{300}$

1 0. 発掘した文化財の概要

小字「谷地」が示すように、かつては不毛の地で凹地であった所へ三沢川の幾回かの氾濫の痕が層位に歴然と残されていた。堆積土を利用した中世以降の開田と氾濫の繰返しによつて土層は攪乱され、更に大正末期の宅地化によつて相当量の置土がなされて、層位は著しく攪乱されていた。

以上のような事情から遺構の存在は全く無く、遺物のほとんどは移動された姿で検出された。

土器片は佐野式（縄文晩期）がほとんどで、それは比較的小片のうえ磨滅したものが多く大部分は無文であつたが、有文のものも50点近く検出した。（拓本参照）

縄文中期の土器片数点が佐野式土器片と共に中層部から出土したが、その下層から珠洲系（須恵質）土器片2点が出土するという攪乱状態であつた。

石器はほぼ完形の磨石斧1点のほか破片数点、石鏃、石錐等が数点出土した。（遺物実測図参照）

1 1. 遺構・遺物の処置

遺物は、研究調査終了後は町公民館資料室に保管する。

1 2. 発掘に対する発掘担当者の考察

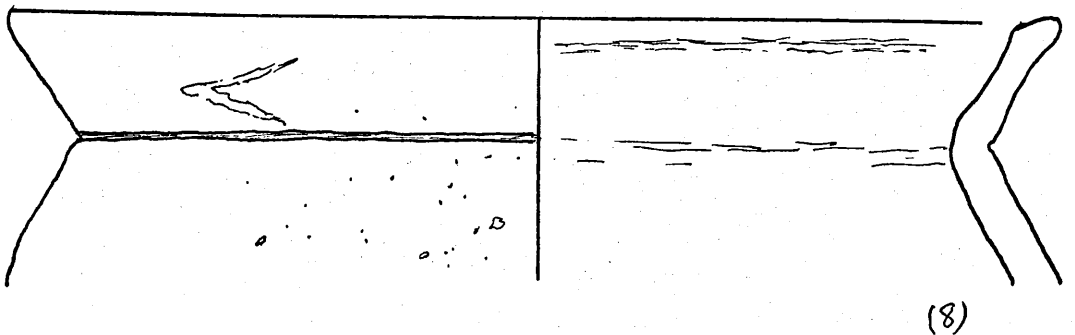
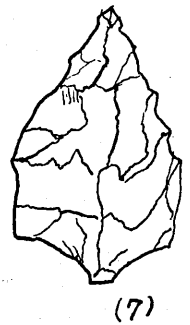
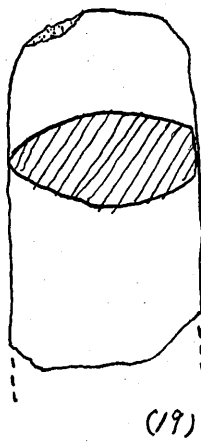
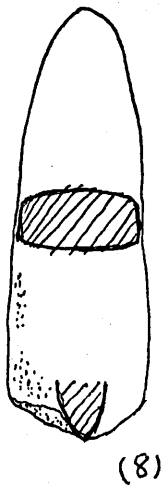
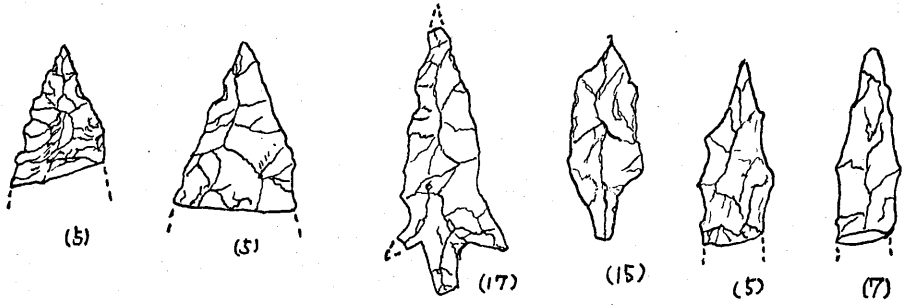
昭和51年8月に実施した範囲確認調査の際は、当該地へも1か所の試掘穴（グリット番号№40）を設定したが、出土品は得られなかつた。

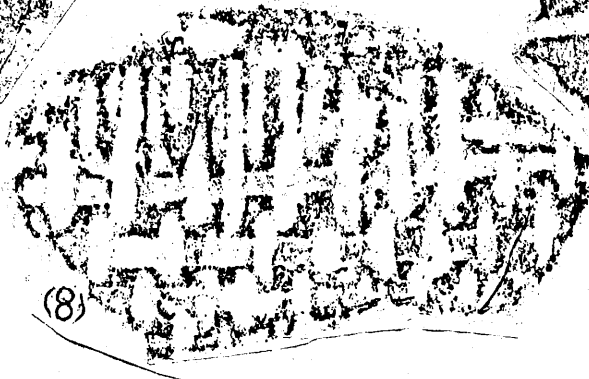
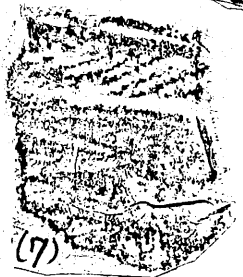
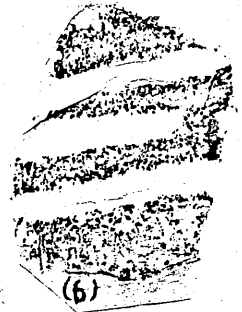
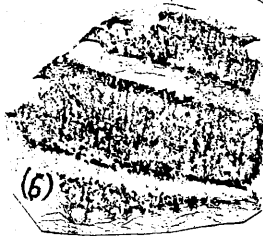
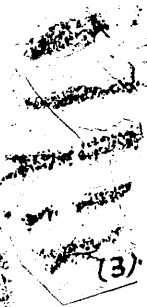
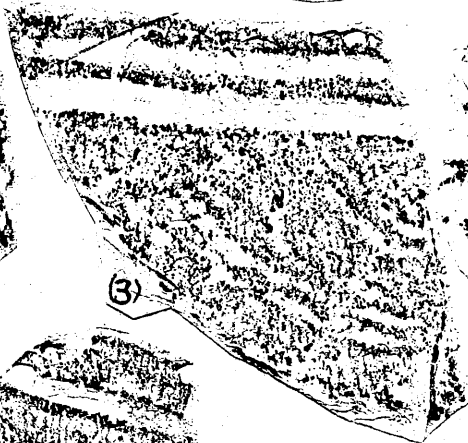
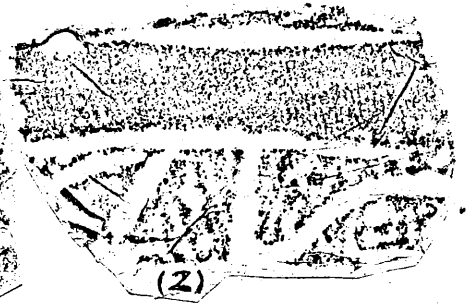
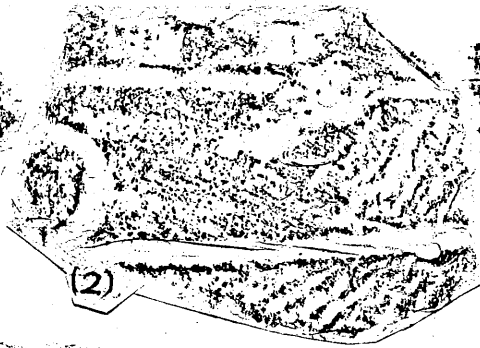
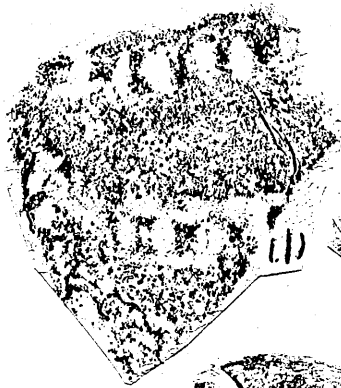
今回の調査では、すでに述べてきたごとく遺構は存在せず、遺物の検出は見たが文化層とのかかわりあいは皆無と言つてよい状態であつた。

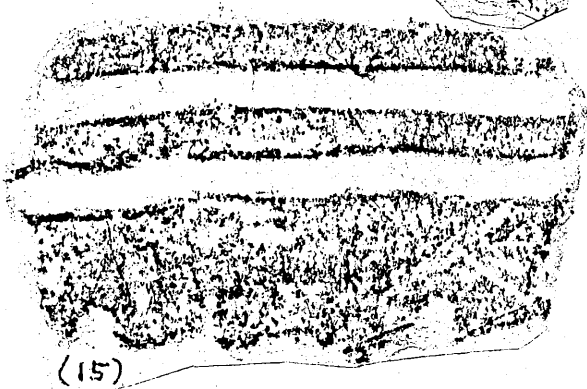
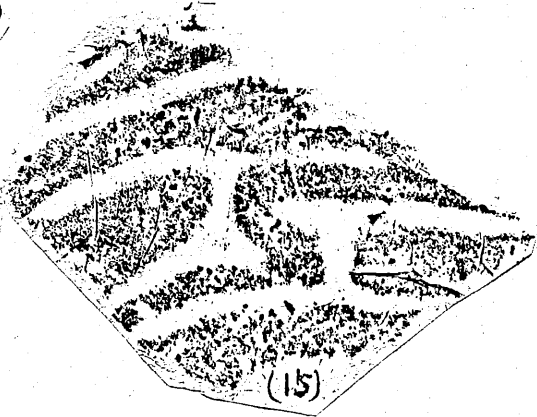
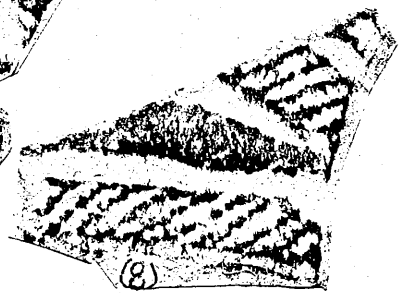
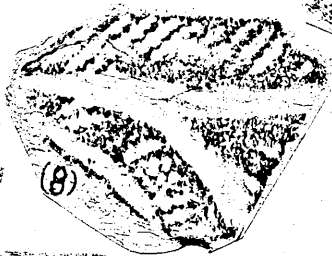
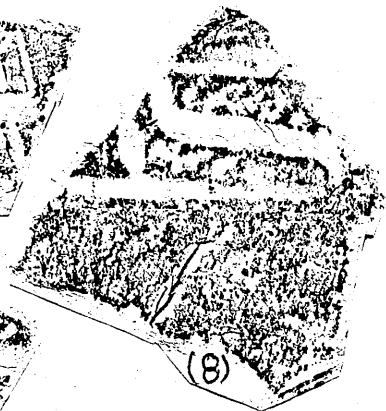
そこで申請のあつた当該地の現状変更は、さしつかえないものと認める。

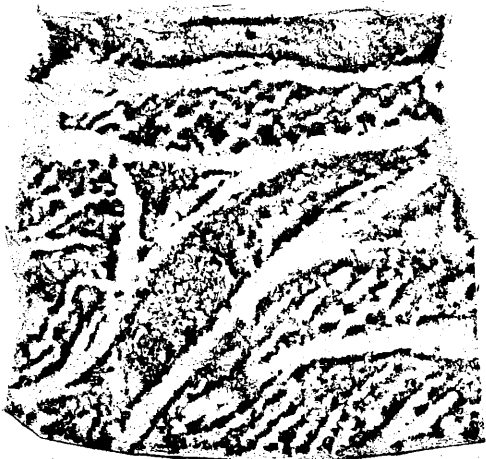
出土遺物実測・拓本図

注()内の数字はグリッド番号

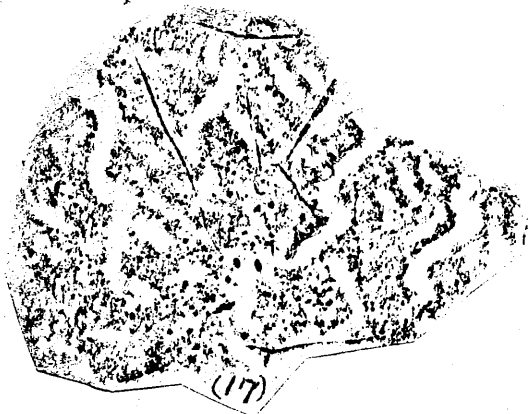








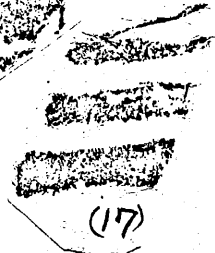
(15)



(17)



(17)



(17)



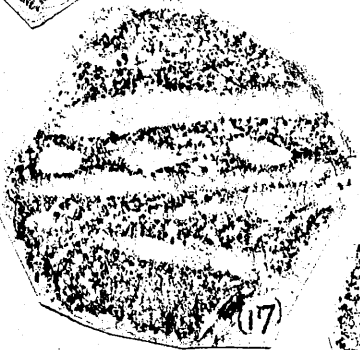
(17)



(17)



(17)



(17)



(17)